

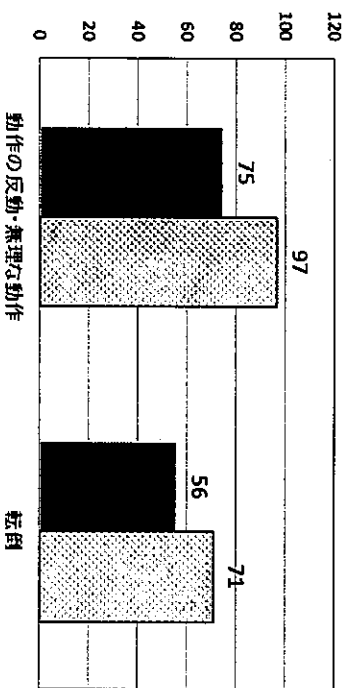
# 社会福祉施設の労働災害防止

～4S活動・KY活動・安全の見える化・腰痛対策～

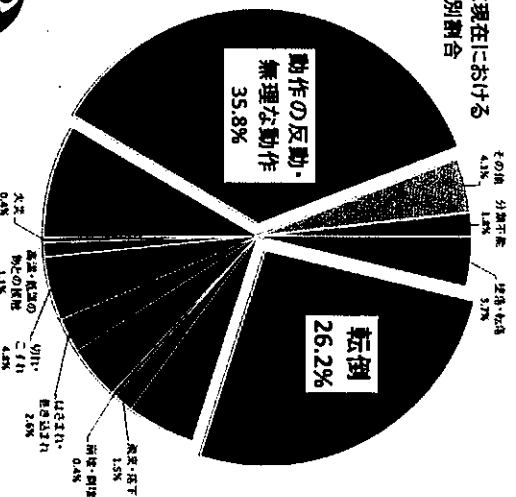
大阪府下の労働災害による死傷者数（休業4日以上）は、平成24年に増加に転じましたが、平成25年8月末現在では前年同期と比較して195人減少しています。しかしながら、社会福祉施設（老人介護施設、保育施設、障害者施設等）における死傷者数は、依然として増加傾向にあり、本年8月末現在の死傷者数は前年同期と比較して46人増加とほかの業種を大幅に上回っています。

また、事故の型では「動作の反動・無理な動作」と「転倒」が、本年8月末現在の対前年同期と比較してそれぞれ22人、15人増加しています。さらにその割合が6割以上占めています。

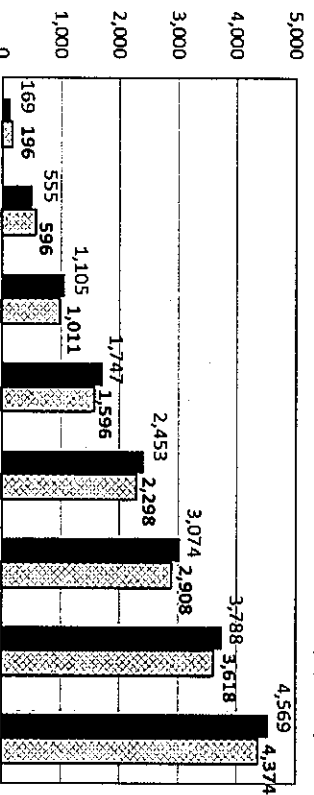
## 平成25年8月末現在における比較



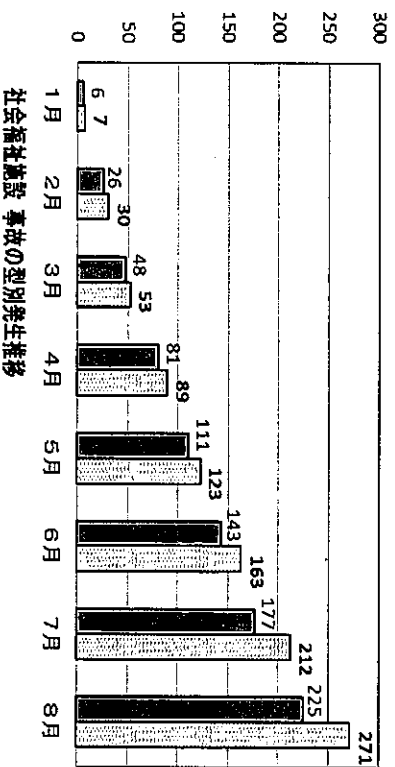
## 平成25年8月末現在における事故の型別割合



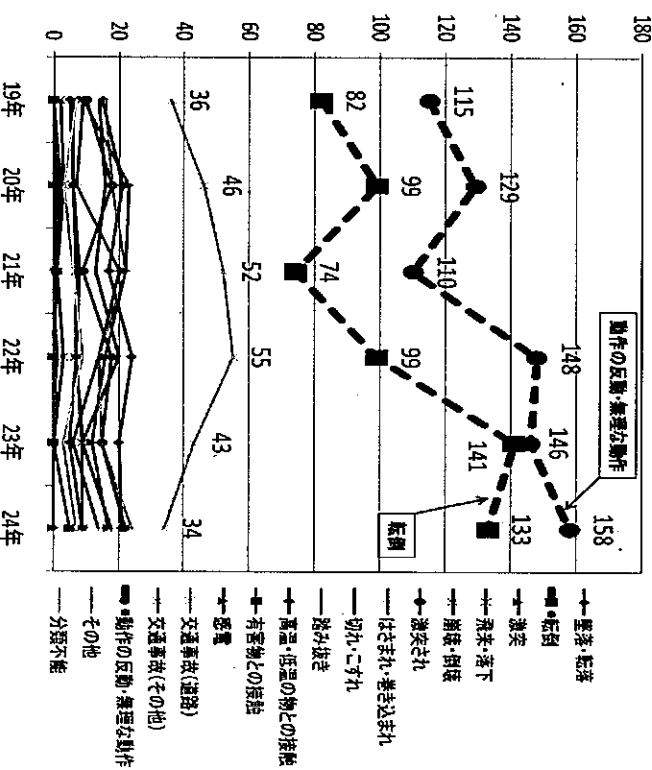
## 全産業における各月別累計比較



## 社会福祉施設における各月別累計比較



## 社会福祉施設 事故の型別発生推移



私たちのために

大阪労働局労働基準部安全課

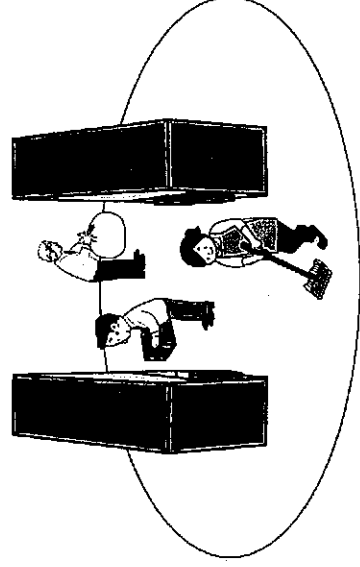
<http://osaka-roundoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>

# 災害防止に効果のある日常活動

**4S活動** 「転倒災害・転落災害」などに効果のある日常の活動として、4S活動があります。

4SのSとは

- ①整理・・・  
必要な物と不要な物を分けて、不要な物を処分すること
- ②整頓・・・  
必要な時に必要な物をすぐ取り出せるように、分かりやすく安全な状態で配置すること
- ③清掃・・・  
身の回りをきれいにし、衣服や廊下のゴミや汚れを取り除くこと  
＜作業スペースや通路が汚れていたり、濡れていると滑りやすくなるので、清掃を励行しましょう＞
- ④清潔・・・  
整理・整頓・清掃を繰り返し、衛生的で、快適な職場環境を維持すること



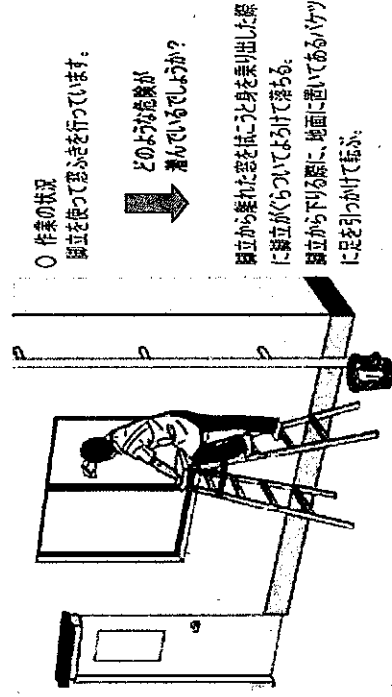
**危険予知 (KY) 活動** 不安全行動による災害防止に有効な日常の活動として、危険予知活動があります。

危険予知(KY)活動とは

人間は誰でも、つい「ウツカリ」したり、「ボンヤリ」したり、錯覚をします。横着して近道や省略もします。このような人間の行動特性が誤った動作などの不安全行動(ヒューマンエラー)をもたらし、事故・災害の原因となります。これらは、通常の慣れた業務で起こりがちです。

事故・災害を防止するには、業務を始める前に、「どんな危険が潜んでいるか」を職場で話し合い、「これは危ない」という危険のポイントについて合意します。そして、対策を決め、行動目標や指差し呼称項目を設定し、一人ひとりが指差し呼称で安全衛生を先取りしながら業務を進めます。このプロセスがKY(K=危険・Y=予知)活動です。

なお、KY活動推進に必要な手法を習得するための危険予知訓練をKYT(T=トレーニング)と呼んでいます。



## 安全の見える化

「安全の見える化」は、職場にひそむ危険を写真などにより、目に見える形にすることによって効果的に安全活動を展開する取組です。誰でも参加することができ、中小企業でも、また、業種に関係なく取り組みます。

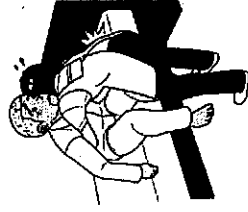
日頃取組んでいる安全活動を見える化するることにより、労働者の安全意識が高まり、また他の監督者・指揮者からも安全な作業の遂行状況が明確になり、ひいては更なる取組の活性化に繋がります。

## 階段を「安全の見える化」した一例



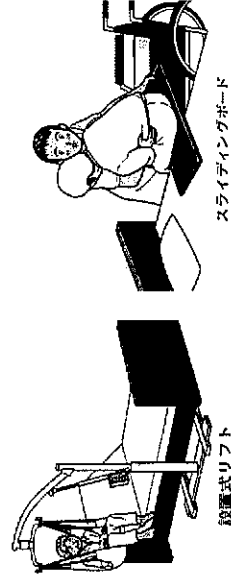
## 腰痛予防対策

腰痛とは病気の名前ではなく、腰部を主とした痛みや張りなどの不快感といった症状の総称です。一般に座骨神経痛を代表とする脚の痛みやしびれを伴う場合も含まれます。腰痛は誰もが経験しうる痛みです。



腰痛を防ぐためには、

- ・福祉機器の利用により作業者の負担を軽減する方法
  - ・適切な作業方法を定めて無理な動作や姿勢を防ぐ方法
- などが知られていますが、それ以外にも、同一姿勢で滞った血流の改善、柔軟性のアップ、筋力のアップに加えて筋肉の強化や柔軟性を向上させる「ストレッチ」も効果的です。



作業対象物や利用者を体に近づけて作業します

